

特別な配慮を必要とする子ども に対する指導法の研究

—的確な実態把握を基にした 個別の指導計画の作成をとおして



人間科学部
子ども教育学科
教授

阿部 敬信

准教授

阪本 啓二

助手

沖本 悠生

助手

井上 佳奈

研究シーズの紹介

幼児教育・保育の現場ではいわゆる「気になる子ども」が増えていると言われている。また、平成24年の文部科学省調査によると、小中学校の通常学級には、6.5%の発達障害の可能性のある児童生徒が在籍していると言われている。

近年、このような子どもに対する指導体制の整備は進み、例えば、小学校の「個別の指導計画」の作成率は、94.9%に達しているが、その活用については課題があると示されており、

また、幼稚園では、作成率が49.5%と作成そのものに課題がある。

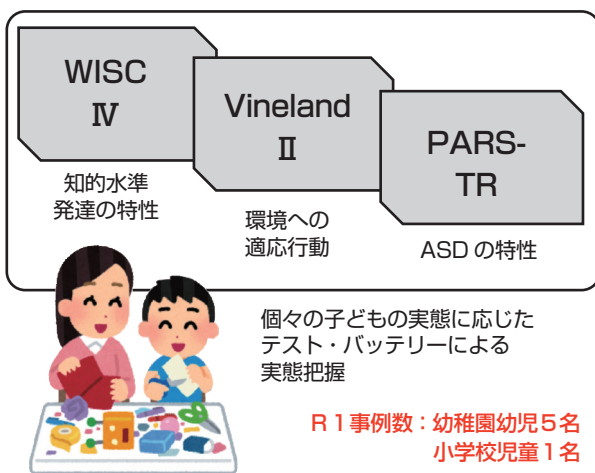
よって、「個別の指導計画」の作成・活用とそれに欠かすことのできない実態把握の方法について明らかにしていくことは、教育現場における課題解決に大きな貢献ができるものと考えられる。



実態把握

- 個別の教育的ニーズを客観的に把握することが重要である。
- 複数のアセスメントを活用するテスト・バッテリーを組むことで、より客観的な把握が可能となる。

ASDのある子どもの事例では…



ASDのある幼児に対する指導の考え方としては
NDBI ; Naturalistic Developmental Behavioral Intervention
が重要である。

指導方針の立案と幼稚園等へのコンサルテーション
・視覚的な支援
・興味関心のある遊び



期待される活用シーン

● 福岡市東区の幼稚園等で集団活動に入れないAちゃんへの教育対応をどうするか?



・幼稚園教諭のAちゃんに対する視点の転換
・Aちゃんの行動変容
「教室でみんなと一緒にいるよ!」



・フラフープでAちゃんの居場所を視覚化
・お気に入りグッズをもって
いることを許可

● 福岡県内の小学校通級指導教室に通う言葉の力が弱い児童Bくんへの指導をどのように進めるか?



・言葉の力の強い領域と弱い領域の把握
・強い領域を生かした指導法と教材の選定



・口頭作文による日記と先生との交換日記化
・日記を書けたことをほめる。プロセス評価の実施

その他の研究テーマ

乳幼児教育における特別支援教育の推進—特別支援教育から、インクルーシブ教育システムの構築へ向け—、阿部 敬信、木船 憲幸、阪本 啓二、沖本 悠生、井上 佳奈、人間科学、2019年1巻 p.38-48。
特別支援教育における「学びの連続性」～平成29年4月告示の学習指導要領に基づいて～、阪本 啓二、木船 憲幸、阿部 敬信、人間科学、2019年1巻 p.49-59。